

## 自死遺族の集い:「どうしたら死なずに」講演や座談会などもー2月1日福岡 /福岡

自死遺族を支援するNPO法人「リメンバー福岡・自死遺族の集い」が発足から4年目を迎え、記念講演会を実施する。自殺で家族を失った遺族がいつまでも抱える思い「どうしたら死なずにすんだんだ……」をテーマに講演や座談会を開催する。会は「こどもに接するすべての人に足を運んでほしい」と話している。【高橋咲子】

娘を亡くした母親がNPOに寄せた手記がある。

《9月は亡くなった娘の誕生日でした。元気だったら29歳……。ケーキに29本のろうそくをともし、残った家族で吹き消し、残った4人で食べました。5年もたとうかというのに、ケーキを食べながら「どうしたら死なずにすんだんだ……」と涙ばかりがこぼれました》

遺族が普段は話せない思いを語り合う場を提供している会の井上久美子代表は「参加者は、子どもを亡くした親が多く、『自分の育て方が悪かったのではないかなどと繰り返し考え、自责している」と指摘する。記念講演会は、こうした遺族の思いを一般の人とも分かち合い、共に考えようとテーマを決めた。

基調講演は思春期外来が専門の精神科医、宮田雄吾・大村共立病院副院長が「行き詰ったこどもを診る時に」と題して講演。遺族や専門家による座談会「私の思いを語れる場所はどこ？」や、医師で音楽療法士の下村泰斗さんによるピアノの演奏がある。また講演会では高校3年生の娘を亡くした父親からの手記も読み上げられる。

講演会は2月1日午後1時、福岡市中央区舞鶴2の5の1の「あいれふホール」である。入場無料だが先着順で事前予約(29日必着)が必要。申し込み先はファクス(092・737・8827)か郵送で福岡市精神保健福祉センター(あいれふ6階)に。問い合わせは同センター(092・737・8826)へ。

〔福岡都市圏版〕

毎日新聞 2009年1月26日 地方版